



**教務支庁記念祭100回から次の一步を！**  
 ～信仰の喜びを 子どもに まわりに～

**北海道  
教務支庁  
教区報**

第569号  
 発行所  
 天理教北海道教務支庁  
 札幌市中央区南8条西11丁目  
 電話011(561)-1148  
 F A X 011(561)-1190  
 tenrikyo.hk@gmail.com  
 印刷  
 三浦印刷株式会社

**立教183年天理教北海道教務支庁  
 第百回記念祭 9月2日 粛々と執行！**

記念祭は、新型「コロナウィル」  
 入禍に揺れる社会状況を鑑み  
 て、支部長、役員並びに管内  
 教会長、ようぼく信者皆様の参  
 拜もお控え頂いて、祭文奏上、そ  
 して座りづこめ、よろづよ八首  
 のおつこめをつこめた。  
 最後に、開催に向けての「趣  
 意書」にて発表致しました「第  
 百回教務支庁記念祭を新たな出  
 発とさせて頂いて、大いに明る  
 く信仰の喜びを現して行きたい  
 と思います。」  
 ・子供に信仰の喜びを伝えよ  
 う！  
 ・おぢばに真実心を寄せましよ  
 う！  
 を再確認し解散した。

**【教区長挨拶・第百回記念祭祭文・慰霊祭祭文】掲載**

〈ごあいさつ〉  
 本日、ここに北海道教区第百  
 回教務支庁記念祭のおつこめを  
 勤めさせて頂く事が出来まし  
 て、心よりお礼申し上げます。  
 明治四十年北海道教会組合所  
 が結成され、今年で113年にな  
 り、北海道教区と定められてよ  
 り、110年となります。  
 私達の先人達は、親神様の奇  
 しきお手引きを頂かれ、開墾  
 に、布教にお励み下され、不思  
 議なご守護に感泣しつつ、教祖  
 よりお教え頂いた御教えを心の  
 糧として道を求め歩まれ、世上  
 不安定でありましても、その中  
 にも信仰の灯を絶やすことな  
 く、親から子へと代々道をつな  
 いで下さいました。本年は教務  
 支庁記念祭第百回目のおつこめ  
 を勤めさせて頂いた事は、多く  
 の先人、先輩の皆様のお陰によ  
 るものであり、まさに、親のお  
 陰で今日があることを、心より  
 御礼申し上げる次第でありま  
 す。記念祭は、大正七年二代真  
 柱様、御母堂様のお入り込みを  
 頂戴した事により始まります。  
 おぢばからも、上級教会から  
 も、遠く厳しい自然のなかに  
 あった教友達にとっては、教務  
 支庁舎の落成、そして親心溢れ  
 る道内各地へのご巡教を下さつ  
 たこと、その喜びはいかばかり

であったでしょう。その親心  
 にお応えさせ頂きたいと、ぢばへ  
 向けて心一つにおつこめを勤め  
 させて頂こうと、記念祭が始ま  
 ります。  
 その後、時代の流れが厳しく  
 なる中も、絶やす事なくおぢば  
 への思いを強めて、親から子へ  
 と信仰の喜びを伝えて下さいま  
 した。この度の新型コロナウイ  
 ルスは、終息するにはまだま  
 だ時間がかかると思います。お  
 ぢば帰りが難しい現状でありま  
 すが、我々に来る事は、教会  
 を拠点としておぢばへの思いを  
 強めること、おつこめをつこめ  
 ること、信仰の喜びを子供に、人  
 に伝えることでもあります。当り  
 前の事ですが、その当り前を  
 改めて見つめ直し、教祖よりお  
 教え頂いている、やさしい心に  
 なりなされや、人を救ける心に  
 なりなされや等々、御教えを基  
 に自分自身の信仰姿勢を正し  
 て、この節を皆で乗り越えて、日々  
 頂いている親心を感じ、ご守護  
 を喜んで明るく通らせて頂きま  
 しょう。今後共、教区、支部活  
 動には、お力添え頂きますよう  
 お願い申し上げます。

北海道教区長  
 西垣定洋

〈第百回記念祭文〉

之の神床にお鎮まり下さいませ親神天理王命の御前に天理教北海道教区長 西垣定洋 慎んで申し上げます。

親神様には、陽気ぐらしを見て共に楽しみたいとの思召からこの世人間をお創め下され、更に旬刻限を待つてこの道の表に現われ、元始まり真実を明かし、日々篤き親心のまにまに、長の年月只ひたすらに子供の成人を願い、夜となく昼となくお守り下さり、たすけ一条の道をつけて、一れつ人間を真の陽気世界へとお導き下さいませ御慈愛の程、誠に有難く勿体ない限りでございます。

私共は親神様の温かい親心に抱かれてお連れ通り頂く喜びを胸に、ご恩報じを忘れずに、道の御用を届かぬながらもつとめさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉き日は、北海道教務支庁記念祭の日柄でございますので、おばに心を結び、尽きせぬ御厚恩に御礼申し上げます、教区管内役職員、おつとめ奉仕者一同心を揃えて、勇んでおつとめを勤めさせて頂きませう。

明治三十五年、修理肥はどこまでもせにやならん、とのおさしづを頂戴し、全国に十教区を設置、北海道は五教区と定められ、明治四十年、北海道教会組合が結成され、四十二年樺太を含めて北海道教区が発足しました。大正六年には、現在地に移転、お許しを頂戴し、管内教信者一手一つのもとふしんを着工し、八年に完成させるのでした。

その中、七年、二代真柱様、御母堂様のお入込みを賜り開庁式を執行され、その親の御恩にお応えさせて頂くよう感激を忘れる事なく、大正十年九月七日、第1回記念祭をつとめられ、教区管内の限らない道の伸展を願い、毎年記念祭をつとめてまいりました。今年には第百回教務支庁記念祭を執り行なう年となりました。

今年に入りましてから、新型コロナウイルスが猛威をふるい、全国的に感染者が増大し、本来なら多くの人々と共に第百回記念祭をつとめ、親神様のご守護、先人先輩達の溢れる真実の心をくみとらせて頂きながら、つとめさせて頂く予定でありましたが、感染状況を考慮致しまし

て、主だつ者で、百年目のおつとめを勤めさせて頂きませう。改めて積もり重なる御厚恩に深くお礼を申し上げると共に、神一条の精神、ひのきしんの態度、一手一つの和のお道の基本たる姿勢を、今一度、ようばく一人ひとりが心に治め、生かされていく喜びを胸に、尚も明るく陽気な心で、これからの歩みとさせて頂きませう。

何卒、一同の心をお受け取り下さいまして、世界中の人々が悩み苦しんでいる今の世の中に、ようばくが進む先々の上には、たすけが広まり、陽気づくめの世の状に立て替りますよう御導き御守護の程、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

〈慰霊祭祭文〉

この祖霊殿にお鎮まり下さいます天理教北海道教務支庁初代支庁長 板倉槌三郎先生の御霊を始め、歴代の教区長及び教区役職員として永年に亘りご苦労下さいました諸々の祖霊様の御前に天理教北海道教区長西垣定洋慎んで申し上げます。

祖霊様には、親神様の奇しきお手引きのまにまに早くから神

一条の道をお通りになり、開墾の昔には巨木天を突き、道無き廣野に挑み、風雪に晒され、酷暑をしのぎ、幾重ご苦労の中も厭わず御教えの理を見つめ、東奔西走、歩きに歩いて、たすけ一条の道に御家族共々に真実の限りをお尽くし下さいました。

北海道の道が今かくありますのは、偏に親神様・教祖の御守護は申す迄ありませんが、また一つには祖霊様方の家をも省みず誠の道を貫き通された真実の賜と日夜忘れることなく御礼申し上げております。

その中にも本日は、年毎の例として事改めて祖霊様をお慰め申し上げ、感謝の真心を捧げまつる定めの日柄に当たりますので、教区、役職員が祖霊様達の御在世中の昔を偲び、御遺徳を称え、心から御礼申し上げます。

更には今年には教務支庁記念祭を始めてより百年の節目にあたり、盛大に執り行行予定でございますが、新型コロナウイルスの全国的な感染状況を考慮致しまして、主だつ者だけで、おつとめをつとめさせて頂く事となりまして、祖霊様達が燃えるような信仰心を持ってお励み

下さいました、その精神を忘れる事なく、尚一層受け継ぎ、これからの先の道の歩みとさせて頂きませう。

大変厳しい節をお見せ頂いておりますが、日々に陽気な心で励み、人々に信仰の喜びが伝わりますよう、にをいかけ、おたすけに励むようばく一同の上には、何卒御心放たず御見守り下さいまして、この上共に成人の足取りを恙なく進ませて頂けませう、お導きの程一同と共に慎んでお願い申し上げます。

※この度の第百回教務支庁記念祭は、新型コロナウイルスの影響もあり日時を変更し、更には内容を縮小し執行されました。当日には感染を避ける上から皆様のご参拝をお控え頂いたため、記念祭の祭文、慰霊祭の祭文、そして記念祭での教区長挨拶をお伝えさせて頂きたく掲載させて頂きました。どうか一読のほどよろしくお願い致します。

(教区報編集部)

### 北海道教務支庁 第百回記念祭に寄せて (その一)

その基を探すと、初代教区長の板倉槌三郎先生に行き着く。北海道教区の今の教勢には、この板倉先生の20年に渡るご丹精に依るところが大きい。そこで、板倉先生の自叙伝を紐解くと、北海道の道の歩みが見えてくる。

### 教祖伝逸話篇五六 「ゆうべは御苦労やった」

本部神殿で、当番を勤めながら井筒貞彦が、板倉槌三郎に尋ねた。

「先生は、何遍も警察などに御苦労なされて、その中、ようまあ、信仰をお続けになりましたね。」と、言うと、板倉槌三郎は、「わしは、お屋敷へ三遍目に帰って来た時、三人の巡査が来よって、丹波市分署の豚箱へ入れられた。あの時、他の人と一晩中、お道を離れようか、と相談したが、しかし、もう一回教祖（おやさま）にお会いしてからにしようと思って、お屋敷へもどって来た。すると、教祖が、

『ゆうべは、御苦労やったなあ。』と、しみじみと、且つニコヤカに仰せ下された。わしは、その御一言で、これからはもう、かえって、何遍でも苦労しよう、という気になってしまった。』と、答えた。(以上逸話篇より)

このご逸話は、初代教務支庁長・板倉先生にまつわるお逸話であります。正に教祖から直々に教えを受けた先生が、遙々ご足労下され今日の北海道教務支庁のもとを纏め上げられたのであります。

板倉先生が東北・北海道と關係を持たれるようになったのは、明治35年8月2日、第四(東北)、五(北海道)教区取締員の拜命に始まるもので、大正9年1月29日辞任されるまでの19年の長きに及ぶ。その間の先生の事跡を拾い出すのに、相応しい一文を紹介します。

〔(前略) 吾が北海道へ先生のお姿を拝しましたのは、確か明治34年頃かと思えます。北海道は開拓の初期で、本教もまたわずかに名称が20箇所足らない程で、ごく幼稚な時期でございました。由来、先生には年々に数ヶ月の大部分を、交通の不便

な、広汎な北海道の隅々までご苦労下さいました。時には、丈なす熊笹をかき分けて、幾里の道を山中にある一信徒を訪れ、時には、脛をも浸す泥道に草鞋がけにて、掘つ立て小屋や笹小屋のあばら舎に、ご不自由な中にも厭いなく、夜を徹してお仕込みくださいされ、お道の基礎をお作りくださった事蹟は、筆にも言葉にも尽くせません。(後略)』

### 「お道の動画やサイトを 活用しよう」

QRコードの読み込み方については、お尋ね下さい。周りの方も教えて上げて下さいね。

### スマートフォンアプリ ワラック



天理教道友社をはじめ、婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会などが提供する刊行物の中からピックアップ記事配信

北海道教区青年會會報 News Letter from Tenrikyo Young Men's Association in Hokkaido To you!!!

8 Aug. 2020

教区・支部青年会活動や様々な特集を毎月お届け致します！QRコードをスマホで読み取って頂き、是非ご一読ください！※アプリを取得せずともお読み頂けます。

Keep informed

▶森さんのヨガTime!!!  
▶信仰エッセイものだね  
▶各支部お知らせ

青年会 お話 動画  
千 遍

ちょっといい話を毎日お届けします！見える世界もきっと変わるはず！月曜から土曜の毎朝7時にお届けします。

布教部 お話 動画  
心♡陽気ぐらし

喜びを見だし明るい気持ちになるうとの思いから、経験豊富な講師より悟りを交えたお話 (約10分)

学生Website  
はっぴすと

冊子「はっぴすと」はWeb版へ変わりました。学生に向けた信仰エッセーや、読者投稿のコーナー、学修フォトアルバムなど掲載

養徳社 お話 動画  
陽気チャンネル

「信仰の糧」「こころの栄養」をお届けします。他にも著名人との対談など、さまざまな企画が始まります。

コロナウイルスが世界で猛威をふるっている。つい二、三ヶ月前の発症で、誰もがまったく予想しない出来事で驚くばかりである。過去にいろんなウイルスが出現し、その時には多大の不幸を招いてきたが、このたびのウイルスは身体の内にも宿っていても発症していない人からも感染するので恐ろしいのである。

どうしてこんな事が起きるのか。ある学者は、私達人間が動物との接し方も含め、自然の摂理をこわしすぎた姿であろうと云っていた。そうすればこれはみんなの問題であり、みんなの責任である。

この世と人間を創造された親神様を信仰している私は、やはり神様の如何なる思召かと悟らせて頂くのである。ウイルスは、みんなが寄り合って楽しく語り合えないのだから、私達の自分勝手に走りすぎる姿を見せて頂いているのかなと。国家が、社会が、組織が、家庭が、それぞれが、自己の利益優先で他者の衰退を助ける心が失せている姿を戒められているのかなと。

まさに生きる環境は、自分だけでは置いてもらえないのだから。それで今月は、以前に私が出した拙書「お道の風景」の中から一節を転載させて頂きたい。

『「慎みが理や、慎みが道や

### 教理随想 三十七

## コロナウイルスに思う

木岡 昭

慎みが世界第一の理、慎みが往還や程に。

最近、あらためてこのおさしづのお言葉を讀ませていただき、身震いを覚えた。そして、このことをお道の風景として、いまの世に映し出さねばならないと思つた。

今日、世界で、国家で、社会で、個人で、それぞれなりに慎みが失せてしまった感じがする。人々は自分にとって痛くも痒くもないことには無関心を装っている。この慎みのない心こそ恐ろしい。「慎みが世界第一の理」との仰せである。これは親神様が創造されたこの世で、私たちが共生させていただくための必須条件である。

ではどうすれば、この慎みの心が培えるのだろうか。それには人としての徳育しかないと思つている。

徳育とは個人の素質を改善していくことである。それは命の元に根差す以外に改善されないだろう。そこで、そこに至る道として、先に分かった人が導くのである。これが道の人の使命である。そして導く人のあり方は、常に前向きな生き方が望まれる。』

この世は自分だけ生きているのではない、みんな生きていくのである。真底この事がわかつて言動する人は本当の喜びが得られる。

## 新会長さん紹介

(令和2年5月26日お運び)

南空知支部

奉告祭 8月9日



富山知一氏 (40歳)

富良野支部

美瑛分教会(雨龍)

奉告祭 8月9日



今井宏輔氏 (36歳)

十勝支部

様舞分教会(豊岡)

奉告祭 7月11日



宮脇昭道氏 (80歳)

空知支部

城道分教会(城法)

奉告祭 8月16日



西山元好氏 (71歳)

札幌白豊支部

空知分教会(兵神)

奉告祭 8月30日



八子尚弘氏 (42歳)

### 編集後記

どこを向いてもコロナか猛暑の話ばかりの中、25日中山大亮様に2女がご誕生されるといふ慶ばしいことがおちばでは伝わり、笑顔が広がりました。雨

のち晴れの向こう側を見ていく時なのでしよう。

写真・教務

支庁選択式

5・26

